

愛知県

シニア災害ボランティアセミナー開催報告

災害に強い地域づくり

過去の災害に学び、次世代に伝える

平成26年1月19日（日）、愛知県豊橋市の「ライフポートとよはし」において、愛知県、豊橋市、当協会が主催するシニア災害ボランティアセミナーが開催されました。

愛知県では、災害時におけるボランティア活動及び自主的な防災活動についての認識を深めるとともに、災害への備えの充実強化を図るため、毎年1月15日から21日を「防災とボランティア週間」とし、防災協働社会の構築を目指しています。

愛知県各地における活動とそれを支えるボランティアの役割について更なる理解を深めるため、「防災とボランティア週間」の期間中に、当セミナーを開催することになりました。

講演会では、冒頭主催者を代表して、小林壯行愛知県防災局長、渡辺明則豊橋市文化市民部長が挨拶し、続いて3名の講師による講演が行われました。

講演1

13:40～14:40

東三河の自然災害

～過去に学び、未来に備える～

北海道大学名誉教授 平川一臣氏
(1) 南海トラフの巨大地震・津波



最初に、世界各地で起きた超巨大地震の調査分析を基に、今後想定される大地震についての説明がありました。

次に、日本を取り巻く海底プレートと地震の関係、地震の周期性などが述べられました。そして、近い将来に発生が想定される南海トラフ地震についての説明、同地域の過去の大地震、被害内容が話されました。

(2) 内陸の活断層…三河地震

昭和20年に発生した三河地震の事例から、内陸の活断層から発生する大地震の説明がされ、伊勢湾・三河湾周辺の活断層と発生する大地震の関係について述べられました。また、阪神・淡路大震災を引き起こした活断層についても述べられました。

(3) 液状化、土地造成と崩落

1964年の新潟地震による液状化、東日本大震災による東京湾岸埋立地の液状化などの被害が述べられ、原因とされる土地人口改変を知っておくことの必要性が話されました。とくに、過去の水域Ⅱ埋立地、海岸線の認識が必要と述べられました。

(4) 気象災害…伊勢湾台風と高潮、豊川平野の特性と洪水

昭和34年伊勢湾台風の高潮による濃尾平野の大水害が述べられました。豊川の洪水ポテンシャルの高さが原因であり、今後も注意を要するとの説明がありました。

また、宅地造成地の崩落、液状化、浸水について解説した上で、購入前に元の地形（谷斜面、流域）を知っておくことが大切であると、その具体的な内容について説明されました。

・土地条件を理解しておく（新旧の地形図情報を使う）。

講演2

14:50～15:50

防災ボランティア活動に学ぶ
～地域におけるボランティアの力～

特定非営利活動法人レスキューストックヤード

代表理事 栗田暢之氏

(1) 災害・減災リサイクル



平時時での被害抑止（発生しないようにするための活動）と被害軽減（被害を軽度にとどめ、拡大を防ぐ活動）、発災時での応急対応（災害直後の人命救助や応急医療措置、消火水防などの活動）と復旧・復興（被害の回復やくらしの再建のための活動）の必要性和効果について、示されました。

(2) ボランティア活動の効果について

各被災地では、ボランティアによる被災者の心を和らげる活動が大切と述べられました。



した。「足湯」による被災者との対話、お年寄りの住居のがれき撤去など、ボランティアならではの活動が紹介されました。

(3) 私たちにできること

これまでの実績から、必要な活動について述べられました。

- ・ どんどん現地に行く。ボランティアでなくとも、観光や会議・研修の場として。
- ・ 現地のものを購入する。
- ・ 県外に避難されている方にも支援。
- ・ 何もなかったかのように、このまま忘れ去れることが一番怖い。そうならないように、心や気持ちだけでも応援し続けること、忘れないこと、一緒に考えること。

(4) まとめ

- ・ ボランティアのあり方などについて示されました。
- ・ 東日本大震災を経て、ボランティアやNPOの重要性はますます認知されている。
- ・ 泥かきや物資提供に代表される初期の活動だけではなく、復興期の支援も見据えた「質の転換」「ステップアップ」の段階にきた。
- ・ 原点は「被災者の生の声」。
- ・ 外部の支援力に加え地元の受援力の強化を。
- ・ 南海トラフ巨大地震は東日本大震災の比では語れない。気づいた人々でつながろう。

講演3

16:00～16:30

啓発活動を通じてボランティアネットワークを築く／豊橋防災ボランティアコーディネーターの会の運営と活動

豊橋防災ボランティアコーディネーターの会



副会長 尾崎公枝氏

13年間に亘り活動を続け、現在160名の会員により構成されている

「豊橋防災ボランティアコーディネーターの会」が紹介されました。同会の前身は、豊橋市が愛知県の地震推進強化地域に指定されたことがきっかけとなり2001年に発足した豊橋防災ボランティアコーディネーター養成講座です。

養成講座は、支援本部の立ち上げ・地域防災計画に基づきDIG（災害図上訓練）、被災者のニーズ把握の研修・災害時の炊き出し・AED・応急救護・搬送法・ロープワーク・無線などの訓練が行われています。

会員の中には、救命救護の研鑽を積み市民サポーターとして、豊橋市の消防事業に協力している人がいるとのことでした。

特別研修として、神戸の防災未来館、富士山レーダードーム館、静岡県地震防災センター、名古屋市港防災センターを視察し、防災意識の向上にも努められています。そして、平成20年度、豊橋市と豊橋社会福祉協議会による各ボランティアコーディネーター養成講座が統合され、市内介護施設より研修生の受講、これまでの養成講座に介護ヘルパーとの連携、食物アレルギー障害者のネットワークの構築等、要援護者支援に取り組んでいます。毎年豊橋市の総合防災訓練に参加、協力、他の関係機関と災害時の連携を強化推進しています。

平成12年の東海水害では、県庁内ボランティア対策本部に入り、必要資器材、支援物資の

調達、粗大ゴミの片付け、撤去などに取り組み復興支援に努められています。このとき使用した運営のマニュアルは、現在も生かされています。

2003年啓発事業部を立ち上げ東海地震に備えて、豊橋にまつわる防災民話を掘り起し大型紙芝居講演・リサイクル防災グッズの開発発表と手作り講習・本場に役立つ非常備品の展示などを実施。自治会や障害者団体施設、愛知県内外で防災講座を開催、活動展開、減災に努めています。

また、飯田市、浜松市、湖西市、豊川市、豊橋市の5市で年1回、「三遠南信交流勉強会」を開催（近隣の幸田、豊田、安城、名古屋市も参加）。災害時のボランティアネットワークの連携を図っています。

現地活動では、平成19年の新潟県柏崎市の地震被害への支援、東日本大震災被災地への支援物資仕分けや荷造り、岩手県陸前高田市でのボランティア活動などがあります。その他、教育委員会を通じ市内小中学校での総合防災学習に取り組んでいます。

最後に災害ボランティアのあり方について述べられ、仲間づくりから始める社会貢献活動であり「貢献とは与えることではなく、共に生きる」と締めくくられました。

各講演では、自然災害の経験に基づく分析と今後の想定・防衛、ボランティア活動の必要性と効果、そして地元のボランティア団体の活動報告などが発表されました。防災認識、事前の準備の必要性が説明され、そして、なによりも地元の結束の大切さが提言されました。